

(様式1)

自 己 評 価 表

(新居浜特別支援学校川西分校)

学校番号(54)

教育方針	1 生きる力を身に付けるために、学ぶ意欲・豊かな心、健やかな体をバランスよく育む。 2 「知識・技能」、「思考力・判断力・表現力」、「意欲・人間性」等の資質・能力を育成するために、主体的・対話的で深い学びを実践する。 3 一人一人がもつ可能性を伸ばすために、障がいの状態や発達等に応じた指導・支援の充実を図る。 4 自立と社会参加を実現するために、一人一人の学びの連続性の確保に努める。	重点目標	地域に生き、地域に貢献する児童生徒の育成 ～人をつなぐ、授業をつなぐ、思考をつなぐ～ 〈小学部〉 個を生かし、人と関わりながら生き生きと生活する力を育む。 〈中学部〉 集団の中で学ぶ意欲を高め、人と協働したくましく生きる力を育む。 〈高等部〉 社会参加を目指し、主体的に自己選択・自己決定し豊かに生きる力を育む。
-------------	--	-------------	--

領域	評価項目	具体的目標	評価	目標の達成状況	次年度の改善方策
学習指導	個に応じた指導の充実	○一人一人の実態を的確に把握し、個別の指導計画を有効に活用する。教科の関連性、系統性のある指導計画の立案、授業実践に努め、担当者間で情報共有や十分な検討をし、3観点に基づく適切な評価を行う。	B	・評価の3観点に関する具体例を記した資料を配付し、周知に努めた。担当者間で個別の指導計画や学習評価について検討する場を設け、3観点を意識した評価が行えるよう取り組んだ。教科の関連性・系統性のある指導計画の立案や授業実践については、研修や啓発が十分ではなかった。	・引き続き、個別の指導計画を有効活用し、日々の授業実践や学習評価の充実を図る。各教科等の教育内容を相互の関係で捉え、教科の関連性、系統性のある指導計画の立案や授業実践に努める。
	分かる授業・楽しむ授業の実践	○個々の実態や障がいの特性に応じた教材・教具を工夫するとともに、ICT機器の効果的な活用を進め、具体事例を共有する。	B	・個々の学習の目標に沿って、障がいや特性に応じた教材・教具の工夫がされており、効果的な支援につながっている。ICT機器の活用について具体事例の共有に努めたが、活用状況については教員個人による差が大きかった。	・児童生徒のもてる力を生かせる教材・教具の工夫に努め、児童生徒自身の主体的な学びにつなげていく。研修課と連携して教材・教具の情報共有に努める。時間を捻出し、小集団でのICT機器の研修に取り組む。
児童生徒指導	発達に即した特別活動・生徒指導の推進	○学校行事や児童生徒会活動等に対して児童生徒が参加しやすい内容と共に支援方法を工夫し、児童生徒が主体的に取り組める環境を設定する。 ○家庭とは普段から連絡帳や学級通信等を通して学校の様子を伝え、安心、安全な学校生活につなげる。学校ホームページを活用し、地域等にも情報プライバシーに配慮しながら、児童生徒の活動を発信する。	B	・文化祭や全校朝礼、児童生徒総会の各行事では、児童生徒の進行等により、主体的に活動できる場や活躍できる場の設定をすることができた。 ・家庭とは各学級より連絡帳等を通じて授業の様子や連絡事項を伝え、連携を図りながら安心、安全な学校生活につなげた。また、ホームページについても各課、各学部により児童生徒の様子を掲載した。	・各行事において、学年や学部を越えての連携を密にし、全児童生徒が交流しながら実施できるような工夫をする。 ・今後も引き続き、家庭との連絡を密にしていくとともに、児童生徒に関わる機関とも連携を図り、より安心、安全な学校生活につなげていく。
	人権・同和教育の充実	○県の「令和6年度人権・同和教育の手引」に基づき、教職員一人一人が様々な人権問題等に関心をもつことで、児童生徒及び教職員の人権が尊重される環境づくりに努める。	B	・校内人権教育研修を2回実施した。内容の違う研修を実施することで、人権問題に対する意識の向上につながり、児童生徒と教職員、教職員同士のよりよい関係作りにつながった。	・人権教育に関しては、慎重に扱うとともに正確な情報や知識を伝えていくようにする。また、研修会を継続していくことで、人権を意識する環境を設定する。

指 導 路	キャリア教育の推進	<p>○キャリア教育全体計画に基づいて、児童生徒一人一人の自立と社会参加を目指した取組を検討し、実践する。実践の経過や成果、キャリア教育に関する取組等を保護者に懇談等で説明する。</p> <p>○学校ホームページや技能検定における学校紹介パンフレットを活用し、キャリア教育の取組について学校外にも広く発信、周知する。</p>	B	<p>・キャリア教育全体計画に基づき、キャリア教育実践をまとめていただいているが、全体への周知のタイミングが遅く、御意見をいただいた。</p> <p>・キャリア教育に関する取組については、ブログ等でその都度発信していたが、保護者のアンケートでは、分からないとの回答もあった。技能検定における学校紹介は、既存のパンフレットによる周知に留まってしまった。</p>	<p>・年度始め、学期ごとにキャリア教育実践について周知し、計画的に進めていく。キャリア教育関連の活動予定を進路だよりでも発信していく。</p> <p>・既存のパンフレットだけでなく、キャリア教育の取組をまとめたものを計画的に作成し、広く周知することに努める。</p>
専 門 性	教員の専門性向上	<p>○肢体不自由教育の基礎・基本や一人一人の実態・教育的ニーズに応じた授業実践に関する研修を実施し、学びの多い場となるように努める。</p>	B	<p>・自立活動をテーマとした講義や実技、教材・教具の活用例紹介や研究授業の実施など、各種の校内研修を行った。概ね学びの多い研修の場となっていた評価を得たが、実践へのつながりについてはやや課題が残った。</p>	<p>・今後も教職員の要望を取り入れながら、充実した内容の研修会となるように努める。無理のない範囲での新しい取組や、これまでの研修会での学びを活用できる環境づくりを行ってきたい。</p>
安 心 ・ 安 全	安全指導・ 危機管理の徹底	<p>○消防署や警察署と連携して、防災教室や不審者対応訓練を実施し、危機管理に関する体制を整える。各教室や設備の安全点検を行い安全管理に努める。</p> <p>○大規模災害に備え、個別に必要な備蓄品等の準備を呼び掛けるとともに、防災用品の整備を進める。</p>	B	<p>・消防署や警察署と連携し、防災教室や交通安全教室を実施した。不審者対応訓練は未実施となった。安全点検では、可能な範囲で早急に修理・改善を行ったが、すべてにおいて対応しきれない状況である。</p> <p>・保護者の協力を得て、個別での備蓄品等の準備が100%であった。ポータブル電源3台・毛布6枚等の防災用品を新たに購入し、災害時に備えた。</p>	<p>・危機管理マニュアルの適宜見直しや様々な状況を想定した訓練を計画的に行う。</p> <p>・教職員に対しても備蓄品等の持参を呼び掛けるとともに、防災用品の購入や災害時の被害が軽減できるよう環境整備に努める。</p>
	健康管理・医療的ケア、 個に応じた給食の充実	<p>○毎日の健康観察と定期健康診断や身体計測の実施により、児童生徒の健康状態を把握する。また、日頃から感染症予防に努め、校内での感染拡大防止に取り組む。</p> <p>○医療機関や県、学校看護職員と連携し、より安全で安心できる医療的ケアの環境を整備する。</p> <p>○学校給食センターや再調理業者と密に連携し、再調理不可の場合の代替食や、一人一人に適した食形態での給食を安全に提供できるようにする。</p>	B	<p>・換気や手指・物品消毒の呼び掛けを継続して行った。保健だよりやマチコミメールを通して、感染症予防や注意喚起を行い、感染拡大防止に取り組んだ。</p> <p>・月1回、医ケア関係者連絡会を行い、情報交換や共有、ヒヤリハット事例の検討を行い、必要に応じて主治医や県から助言をいただき、安全安心な医療的ケアが行えるよう努めた。</p> <p>・代替食の提供対象者はいなかった。一人一人に適した食形態で提供できるよう、今年度もいつでも食形態の変更を可能にし、都度対応した。</p>	<p>・今後も感染症予防に努めるとともに、担任・養護教諭・関係者等で児童生徒の健康状態を把握し、家庭とも共有する。また、感染症対策の協力を家庭にも呼び掛ける。</p> <p>・医ケア関係者連絡会を引続き行うとともに、担任、看護師間で必要に応じて連絡会を設定し、よりよい医療的ケアが行える体制を整える。</p> <p>・食物アレルギーへの対応、適切な食形態での提供に対応できるよう、学校給食センターや再調理業者と密に連携する。</p>
地 域 保 護 の 連 携	保護者との連携、 PTA活動の活性化	<p>○PTA役員と「一人一役」の保護者、学校が協力して、保護者の要望を取り入れ、負担軽減できるよう見直しを行いながら、PTA行事を計画し、実施をする。PTA行事の取組を理事会会議録やPTA掲示板、学校ホームページ等で周知する。</p>	B	<p>・多くの保護者がPTA活動に参加して、実施することができた。活動を通して、保護者同士のつながりも深まっている。保護者アンケートを実施し、意見を吸い上げ、来年度以降のPTA活動へ反映させていく。PTA行事の取組を理事会会議録やPTA掲示板、学校ホームページ等で伝えた。</p>	<p>・今後も保護者の意見を取り入れる。また理事の負担を軽減できるようPTA活動の見直しも行いながら、計画する。また、保護者同士のつながりがより活発になるよう参加も積極的に呼び掛ける。取組内容を丁寧に周知するという点はこれからも継続していく。</p>
	地域との連携、 センター的機能の充実	<p>○校内外のニーズに応じて、教育・医療・福祉等関係機関と連携しながら個別に丁寧に対応し、地域からの依頼に対して多様な方法で100%応え、継続した就学相談や訪問支援、肢体不自由教育に関する適切な情報提供を行う。</p>	B	<p>・外部からの教育相談や学校見学等の要請は14件あり、相談内容に応じて、コーディネーターを中心に2、3名の教員で対応し、全ての要請に応じることができた。また、訪問支援は4件の依頼があり、在籍校での支援方法について情報提供を行った。内1件は、来年度も継続して訪問支援や情報提供を行えるよう、継続して担当者間で連携を図っている。</p>	<p>・今後も継続して、校内外の関係者と密に連携を図り、早期からの教育相談や、継続した訪問支援等、肢体不自由教育や就学に関する適切な情報提供を、積極的にやる。</p>

<p>教 革 職 ・ 員 業 の 務 働 き 方 改 善</p>	<p>適切な勤務時間と 業務負担の軽減</p>	<p>○校内一斉の定時退庁日(リフレッシュデー)を週1日設定する。最終退庁時刻の提示、年休の取得やテレワークを推進し、教職員一人一人がメリハリのある働き方を意識できるようにする。各課各部内で負担となっている慣例的な行事等や業務の内容を一項目以上見直すよう促し、負担軽減に努める。</p>	<p>B</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・自身の働き方を意識し、教職員間で協力体制の下、日々の業務に取り組んでいる教職員が増えた。 ・時間割の見直し、勤務外時間の自動音声対応、欠席等連絡のデジタルツールを導入し負担軽減に努めた。 ・長期休業中の年次有給休暇やテレワークについては、全教員が積極的に取得した。授業日について、勤務外労働時間が減少をしているが、一部の教員に業務分担の偏りがあること、業務量が軽減していない状況である。 	<ul style="list-style-type: none"> ・業務分担の偏りが起きないよう、年度・学期始めの各課・各部の担当の適切な割振りを行う。 ・学校行事や会議の精選、授業時数や慣例的な行事等の内容の見直しを積極的に進める。 ・会議時間が退勤時間を超えないよう、時間の管理を行う。
--	-----------------------------	---	----------	--	--

※ 評価は5段階（A：十分な成果があった B：かなりの成果があった C：一応の成果があった D：あまり成果がなかった E：成果がなかった）とする。